東北芸術工科大学 紀要

ANNUAL REVIEW OF TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN

TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

NO.7
Mar.2000

東北芸術工科大学 紀要

ANNUAL REVIEW OF TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN

© 2000by The Tohoku University of Art and Design

All rights reserved. No part of this publication may be
reproduced in any manner whatsoever without permission
in writing

Art Direction
Takahisa Kamijyo

Editorial Design
Takaaki Matsusita

Editor
Chieko Shinozuka (Head)
Mitsuo Banba
Naomichi Torimiya
Toru Nukui
Hiroshi Koto
Masaki Tajima
Hiroshi Abiko
Goto Ayako

Printed
OKAZE CORPORATION

Published by The Tohoku University of Art and Design
200 Kamisakurada, Yamagata
990-9530 Japan

目　次

Contents

6	新井旅館相原家蔵　木造聖観音菩薩立像の修理※1 報告と「周辺の人的保存環境※2」について Report the Restoration of the Wooden Standing Sho Kannon Bosatsu (the Bodhisattva, the Goddess of Mercy) at the Aihara Family's Arai Inn, with a Study on the Preservation Enviroument by Neighbors.	牧野　隆夫 MAKINO Takao
26	調（しらべ）とともに —なだらかな流れ—	山田　修市 YAMADA Syuichi
38	漆芸「変り塗」技術とコンピュータデータベース化の研究	小林　伸好 KOBAYASHI Nobuyoshi
44	東北地方の病院における非常時の水・電力供給機能維持に関する調査研究 A Survey on the Functional Sustainability of Water and Elecricity in an Emergency of Hospital Buildings in Tohoku Area	三浦　秀一 MIURA Shuichi
50	山形市上桜田集落の風景に関する研究 A Study on the Landscape at Kami-Sakurada Village in Yamagata City	温井　亨 NUKUI Tohru
68	『Fil-typo図典』の制作とNameplateへの展開 Design of visual dictionary for nameplate by Fil-typo	馬場　雄二 BABA Yuji
104	特別研究 ネット・ムセイオンを目指して　I IT支援によるネット環境におけるアクセス型の学習機能空間の試行	端山　貢明 HAYAMA Komei
128	東北芸術工科大学開学の共同住宅立地への影響 The Impact of the Establishment of TUAD on Apartment Houses	古藤　浩 KOTOH Hiroshi
138	学内イントラネット導入に関する調査研究 Study on introduce Campus- Intranet	長谷川　文雄 HASEGAWA Fumio 白神　浩志 SHIRAGAMI Hiroshi 松村　茂 MATSUMURA Shigeru 坂元　徹 SAKAMOTO Toru 工藤　彰 KUDO Akira 赤塚　仁 AKATSUKA Hitoshi
148	光のワークショップ	松村　泰三 MATSUMURA Taizo

156 ビデオ静止画自動抽出によるデータベースの自動組織化 前川 道博 MAEKAWA Michihiro
An Automation Method of Video Image Databasing

166 古代インド思想史と近代宗教人類学史の発展的類似性（要旨） 久保田 力 KUBOTA Chikara
Parallel development between Indian philosophy and religious Anthropology (Summary)
－宗教“研究史”の発生論的アナロジー－

170 分析論的領域と説明概念 田島 正樹 TAJIMA Masaki

178 研究のはやりとすたり ―ソリトンと固体物理― 和田 靖 WADA Yasushi
In and out of fashion in research works —soliton and solid state physics—

192 執筆者一覧
Contributors

四 三島由紀夫論 ― 物語の廃墟から

千葉 一幹 CHIBA Kazumiki

編集後記

Afterword

紀要第７号という船が予定より少し遅れて春の海へ出帆することになりました。美術と人文科学とテクノロジーが一丸となった、我が国の大学では珍しい積み荷を載せて。先に船出した第１号から第６号までの船たちは今、どのあたりを航海しているのでしょうか。海はあまりにも茫洋として、その航跡ははっきりとは辿れません。しかし目には定かに見えなくとも、ひとすじの航跡が波間に続いているはずです。

この４月から、本学のシラバスはペーパーの冊子ではなく、ネットバスで提供されるようになりました。昨今、本学で進められているIT（情報技術）革命の連鎖の一つといえましょうか。ネットバスと今ここに手にしているペーパーの紀要。何かしら伝統と革新という問題を考えさせられます。そしてペーパーによる印刷物という伝統はいつまで続くのだろうか、と。たしかに、人類の歴史を振り返ってみると、情報を伝達するための媒体は必ずしもいつも同じだったわけではありませんでした。パピルスや粘土板、石、木簡、羊皮紙……等々。ペーパーが主流になるまでこのようにさまざまに変化したとはいえ、これらの媒体には共通点－「手触り」という共通点－がありました。書物のCD-ROM化、DVD化が今や浸透していくなか、この「手触り」には格別の、かけがえのない味わいがあると思います。いつかこの「手触り」を忘れる時が果たして来るのでしょうか。開学以来最初のネットバスが実施されてまもなく、独特の手触りと重みのあるこの第７号が上梓され、編集者としてはつい本学の紀要の未来に思いを馳せてしまいました。

最後になりましたが、執筆者ならびに編集委員の方々、そして関係者各位のご協力に深甚の謝意を表します。

篠　塚　千恵子

東北芸術工科大学紀要　No. 7

平成12年5月10日　発行　©

発 行 者　東北芸術工科大学
990-9530　山形市上桜田200
會田雄亮

編　　集　紀要編集委員会
編集委員長　篠塚千恵子
編集委員　番場三雄、鳥宮尚道、
温井　亨、古藤　浩、
田島正樹、安孫子裕、
後藤綾子

ブックデザイン　上條喬久　　協力　松下貴昭

印　　刷　株式会社 大風印刷

すものの存在である。すなわち天皇を超越的なものとする虚構を虚構以上のものとするには、他者をしてこの虚構へと誘う触媒としての、この虚構に全的に身を投ずるものが必要だということである。だが、他方戦後の天皇は人間宣言をして、すでにその現人神という衣装＝意匠を脱ぎ捨ててしまっていた。三島が天皇に求めていたのは、『英霊の声』で語られているように天皇の死であった。この『英霊の声』は、イエスの、人類の罪を負っての磔刑死とその後の再生という神話を下敷きにしつつ、まさに天皇の死が天皇という虚構の物語すなわち「民族＝国民の物語」を虚構以上のものにするのを可能にしたという、ありうべき戦後の日本の起点を描いている。イエスが人類の罪を負って死んだのでなく、イエスが死ぬことで逆に人類の罪を負って死んだイエス＝キリストという神話が生まれたように、天皇が死ぬことが天皇という虚構の物語を支える起点になったということだ。だからこそ、三島は自らが天皇の為に自決することで、失われた天皇という虚構の物語の再興を図ったのだ。

だが、ここで忘れてはならないのは、天皇という「民族＝国民の物語」を三島自身が信じていたわけではないということだ。三島の様々な作品においては、そのクライマックスで度々「琴の音」が鳴り響いているが、この「琴の音」はあらゆることが相対化された末に訪れる救済の音として登場する。この「琴の音」は、三島が毛嫌いした太宰治の『トカトントン』に想を得たものと考えられ、三島の「琴の音」と太宰の「トカトントン」を対置すると、その意味も鮮明になる。三島は「世界は虚妄だ、というのは一つの観点であって、世界は薔薇だ、と言い直すことだってできる」と書いているが、死ぬ意欲すら奪ってしまう「トカトントン」が「世界は虚妄だ」ということだとすれば、「琴の音」は「世界は薔薇だ」という言うことに対応するだろう。つまり、われわれは世界の外部に立ち超越的高みから、世界を見下ろすことできない以上、世界には相対的な価値しかないというのも、世界には絶対的なものがあるというのも、どちらも同様にそれ自体相対的な一つの見方に過ぎないというのだ。どちらを取ろうとそれ自体ある一つの信の形式だということである。そして三島は、後者を選択した。

しかしまた、太宰の『トカトントン』は、「トカトントン」という音が鳴り響くだけで終わっているわけでなく、「トカトントン」の音が聞こえて何をする気力もわかないと作家に相談する青年の言葉に続いて、その相談相手の作家自身の言葉で締めくられている。そこで作家がいわんとしたのは、結局青年は「トカトントン」という音が聞こえるということを自身の悲劇の拠り所としているという点で密かに救済されているということである。青年は「トカトントン」すら聞こえない地点、坂口安吾の言葉を借りればあらゆる救済のない「文学のふるさと」に、立ち至っていないのだ。三島と太宰の違いは、この生の無根拠さに直面したとき、その無根拠さを虚構によって隠蔽し、忘却しようとするのかしないのかということにあるだろう。三島はそこで天皇という虚構を求めた。太宰は小説という虚構を作り上げつつそれを常に解体するという方法を採った。小説が物語の解体を生きる術であるのなら、太宰のように「トカトントン」も「琴の音」も聞こえぬ方へと歩みを進めるべきではなかったのか。それが文学の力のように思われる。それもまた、信の一つの形式に過ぎぬとしても。

＊本文は、『群像』一九九九年三月号　講談社刊に掲載された論文の要約である。

三島由紀夫論――物語の廃墟から

千葉　一幹
CHIBA Kazumiki

三島由紀夫は、戦後を戦時期に可能であった「美しい夭折」という悲劇が不可能であるという意味において、汚辱にまみれた時代と見なしていたとされる。だが、三島が敗戦直後に書いた作品にはこうした見解に明らかに反する言説が見出される。戦後を「汚辱」の時代と捉えるような視点は、三島の実感というよりも、一種の虚構とみるべきなのだ。ならば、戦後についての三島の認識は虚偽だと言えばいいのか。むしろ、三島はそれを虚構と知悉した上で、敢えてそのような虚構を語りだしたと言うべきだろう。

では、なぜ三島はそのような虚構を語り始めねばならなかったのか。その手がかりは『潮騒』にある。三島は、この『潮騒』においてギリシア的世界の再現に失敗し、その結果主人公新治は「痴愚」にしか見えなくなってしまったと語っている。三島の言うギリシア的世界とはヘーゲルの影響下のものと考えられるが、新治が「痴愚」にしか見えないのは、『潮騒』の世界の基本にある汎神論的世界観＝アニミズムを人々がもはや共有できないからだ。より正確に言えば、アニミズムという虚構を共有できないことに起因する。それと同様に、戦中の「夭折」が美しいのは、「国家のために」命を捨てることに崇高さを見出す「民族の物語」「国民の物語」が国民に共有されていたからである。さらに、こうした虚構が単なる虚構に止まらず、あたかも実在する「かのように」（森鷗外）みなされるためには、こうした虚構を承認する他者が必要になる。

三島の小説には、虚構が、他者の承認により、単なる虚構以上のものへと転成する機微を捉えた『三熊野詣』という作品がある。この作品の重要性は、右に述べたような意味に止まらず、戦後における超越的なもの不在を滝というメタファーを通じて語っているところにもある。

滝の意味は、『豊饒の海』において最も端的な形で現れている。三島の遺作である『豊饒の海』第一巻「春の雪」で松枝清顕が本多繁邦との輪廻転生後の再会の場所として指定したのも「瀧の下」である。そして、この滝が『豊饒の海』において姿を隠すのが、この四部作において戦前を舞台にした第三巻「暁の寺」の第一部であり、戦後が舞台となるそれ以降の巻では、滝は現れなくなる。

しかし実はこの滝と同時に『豊饒の海』から姿を消したものこそ重要だ。それは洞院宮に代表される天皇に連なるものたちだ。そしてそこで着目すべきは、飯沼勲に最も端的な形で示されているように、天皇の為に命を投げ出

6 新井旅館相原家蔵　木造聖観音菩薩立像の修理※1 報告と「周辺の人的保存環境※2」について
Report the Restoration of the Wooden Standing Sho Kannon Bosatsu (the Bodhisattva, the Goddess of Mercy) at the Aihara Family's Arai Inn, with a Study on the Preservation Enviroument by Neighbors.
牧野　隆夫 MAKINO Takao

26 調とともに
—なだらかな流れ—
山田　修市 YAMADA Syuichi

38 漆芸「変り塗」技術とコンピュータデータベース化の研究
小林　伸好 KOBAYASHI Nobuyoshi

44 東北地方の病院における非常時の水・電力供給機能維持に関する調査研究
A Survey on the Functional Sustainability of Water and Elecricity in an Emergency of Hospital Buildings in Tohoku Area
三浦　秀一 MIURA Shuichi

50 山形市上桜田集落の風景に関する研究
A Study on the Landscape at Kami-Sakurada Village in Yamagata City
温井　亨 NUKUI Tohru

68 『Fil-typo図典』の制作とNameplateへの展開
Design of visual dictionary for nameplate by Fil-typo
馬場　雄二 BABA Yuji

104 特別研究
ネット・ムセイオンを目指して　I
IT支援によるネット環境におけるアクセス型の学習機能空間の試行
端山　貢明 HAYAMA Komei

128 東北芸術工科大学開学の共同住宅立地への影響
The Impact of the Establishment of TUAD on Apartment Houses
古藤　浩 KOTOH Hiroshi

138 学内イントラネット導入に関する調査研究
Study on introduce Campus- Intranet
長谷川　文雄 HASEGAWA Fumio
白神　浩志 SHIRAGAMI Hiroshi
松村　茂 MATSUMURA Shigeru
坂元　徹 SAKAMOTO Toru
工藤　彰 KUDO Akira
赤塚　仁 AKATSUKA Hitoshi

148 光のワークショップ
松村　泰三 MATSUMURA Taizo

156 ビデオ静止画自動抽出によるデータベースの自動組織化
An Automation Method of Video Image Databasing
前川　道博 MAEKAWA Michihiro

166 古代インド思想史と近代宗教人類学史の発展的類似性（要旨）
Parallel development between Indian philosophy and religious Anthropology (Summary)
—宗教"研究史"の発生論的アナロジー—
久保田　力 KUBOTA Chikara

170 分析論的領域と説明概念
田島　正樹 TAJIMA Masaki

178 研究のはやりとすたり —ソリトンと固体物理—
In and out of fashion in research works —soliton and solid state physics—
和田　靖 WADA Yasushi

192 執筆者一覧
Contributors

目次
Contents

四　三島由紀夫論 ― 物語の廃墟から
千葉 一幹
CHIBA Kazumiki

東北芸術工科大学 紀要

ANNUAL REVIEW OF TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN

東北芸術工科大学 紀要

ANNUAL REVIEW OF
TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

NO.7
Mar.2000